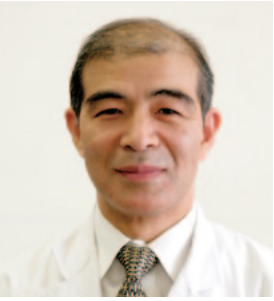
笑顔のひろば

笑顔のひろば「第８号」
平成21年1月15日
発　行
川崎協同病院広報委員会
川崎市川崎区桜本 2-1-5
TEL:044-299-4781(代)
FAX:044-299-4788

地域におけるポジショニングを見極める



川崎協同病院院長
大山 美宏

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は、地域の皆様方のお世話になりました。〇六年度に決まった医療構造改革の本格的な〇八年度からの実施、社会保障費二二〇〇億円のあくまでの削減の方向、病院の医師体制の困難が、医療崩壊から医療破壊へと事態が深刻さを増している中での一年間であったかと思います。結果として連続四回の診療報酬が減額となり、病院経営も大変厳しくなり、どの病院協会の報告を聞いても赤字が半分以上となっております。自治体病院は一層経営の深刻さを増し、自治体においては病院そのものが廃院となり、その自治体において安心して住み続けることができなくなっております。病院が人が住むにあたってなくてはならないもの、社会的共通資本であることが、一層明らかとなった一年であったと痛感させられます。

アメリカ発の世界的経済不況が日本においても猛威をふるっております。ここからの脱却はこれから十年前後かかるものと思われます。医療構造改革、社会保障削減、医師不足、不況の中での病院の運営は至難を極めます。診療報酬で、「地域の中核となる病院」「DPC参加病院」を急性期医療とする上からの強引な病院の改編が進んでおります。DPC病院は準備病院を入れると一〇〇〇病院、急性期ベッドの五十万床弱となります。これが地域においては大きな変動の波をおこします。DPC病院は在院日数が短縮することからベッド稼働をあげるためには地域から患者を吸引するもので、一般中小病院から患者が引きつけられることになります。一般中小病院にとっては、診療報酬での圧力と、不況と負担増による患者減にさらに病院機能の違いにおける患者減の三重苦の影響が一層大変な事態となります。自分の病院の地域における位置づけ、いわゆるポジショニングを適切に見極めることが必要です。機能分担と連携がキーワードですが、地域のなかでの連携がいっそう必要となります。当院もこの一年は地域のなかでのポジショニングと連携をはかる1年となります。川崎は幸い大きな病院がまだ健在です。地域医療の崩壊をおこさないためにも連携を下からつくりあげていかなければならないと考えております。よろしくお願いいたします。

昨年の診療報酬対応は十二月までかかりました。一般急性期病床7：1、障害者病床10：1、回復期リハビリテーション病棟13：1となりました。患者様が早く元気に退院できるように医療の質を向上させたいと考えております。

地域連携室より

地域の諸先生方には、日頃から大変お世話になっております。又、ご協力いただきましてありがとうございます。この度、十月十六日付けで、地域医療連携室に勤務することになりました。川崎協同病院に入職して、病棟経験しかないために、慣れないことも多く、ご迷惑をおかけすることも多いかと思います。

現在、地域医療連携室では、日々のベッドコントロールや、入院調整、転院相談、退院支援など多岐にわたる業務を行っています。

今後も、ご紹介いただいた患者様をスムーズに、診療でき、入院に繋げていくことや、在宅に帰られる医療依存度の高い患者様に関り、患者様、ご家族の方が不安のないよう、安全、安心に在宅に帰られるように、病棟で学んだことを生かし、看護師の視点で退院支援をしていきたいと思っています。

今後とも、入院、転院、退院を通して「顔の見える連携」を構築できるように頑張っていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

地域医療連携室　看護師長
齋藤 朱美

複雑な医療に対応する質の向上と働きやすい職場環境整備を実現

新年あけましておめでとうございます。

年の初めにあたり、地域の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

昨年は、世相を表す漢字に「変」が選ばれました。振り返ってみますと、私たちをとりまく生活の中にさまざまな変化がありました。ガソリンの高騰、食料品の高騰など景気悪化は家庭生活にも大きく影響を及ぼしました。オイルショック以来の不況の中で、職を失い、住むところを失う人たちもでてきており深刻さが増しています。医療の面では後期高齢者医療制度に始まり、診療報酬改定、これまでの住民検診から、未整備な特定検診への移行など、医療を受ける側も提供する側にとっても、非常に困惑した状況が生まれました。また、無保険である中学生以下の子供が三万三千人もいることがわかり、患者になれない状況がここまでひろがっている実態も明らかになりました。このような中で私たち看護師は、患者さんの生活や労働の場を、疾病と密接な関係にあるととらえ、日々看護にあたっています。現場では、医療の高度化、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮などにより、看護業務が多様化・複雑化し密度が濃くなってきています。患者の権利の保護や医療安全の確保などの取り組みが進む中で、看護職には複雑・多岐に渡る問題に適切に対応でき、専門家としての高い能力と人間性がこれまで以上に求められていることを痛感しています。

このような中にあって、今年度さらに力をいれていきたいことを2つあげてみました。

1つは複雑な医療要求にもこたえられるように、質の向上にさらに力をいれて取り組んでいくことです。当院には現在2名の認定看護師が、それぞれの分野で活躍しています。緩和ケア認定看護師を中心にしたケース回診や、皮膚創傷認定看護師による人工肛門外来やチームによる褥そう回診など専門的な知識を他職種を交えたスタッフで構成したチームで活動しています。他にもNST活動（栄養サポートチーム）や、医療の安全を確保するために、医療安全や、感染防止のためのチーム活動を行っています。

活動を通して、患者さんを中心にした看護が展開され、それによって携わるスタッフがいきいきとやりがいを感じ取れればと期待しています。

また2つめは働くスタッフにとって働きやすい環境を作り上げていくことです。現在もなお全国的に看護師不足の状況は改善されていません。当院では一昨年から潜在看護師の復帰のセミナーを開催しました。それをきっかけに当院への入職や、復職をされた方がいらっしゃったことは、喜ばしいことです。また院内保育所の充実、時間外の仕事をできるだけ短縮させる業務改善など、だれもが働きやすい職場環境を追求していきたいものです。

昨年末に川崎市内の十二ヶ所の病院を訪問させていただきました。看護師確保には苦労している病院が多く、どこも切実な悩みになっています。ある病院の看護部長さんからは「川崎の看護師同士で競合するのではなく、協力していきたいですね」と声を掛けていただき、私たちの取り組んでいる、「看護師増やせ」の請願署名に協力していただくことが出来ました。このネットワークも今年はさらにひろげていきたいと思っています。

最後に当院の強みは、地域で病院をささえてくださる組合員さんの力です。共に作り上げる立場でかかわっていただいています。時には、お叱りを受けるようなこともありますが、改善につなげよりよい病院をめざしていきたいと思います。

私も川崎の住民歴二十五年です。この地元に住み地元で働く看護師として、さらに地域の要求をつかみ地域に信頼される医療活動を展開していきたいと思っています。

今年もよろしくお願いします。

看護部長
八木 美智子

ご存知ですか？『模擬患者』

皆さん、「模擬患者」って知っていますか？

模擬患者とは医療者のコミュニケーション教育のために行う体験学習・シミュレーションのために患者役をする人のことです。模擬患者にはSimulated Patient（模擬患者）とStandardized Patient（標準模擬患者）の二種類がありますが、どちらも略して「SP」と呼ばれます。前者は演技の自由度が高く、医療者の能力などに応じて調節が可能であり、比較的長時間の面接で深い内容まで学習できます。後者は比較的短時間の演技、標準化された演技が求められ、医学部の試験などで用いられることが多いものです。

その模擬患者を用いた教育を川崎医療生協でも取り組んでいます。川崎の模擬患者は多くの場合、前者の模擬患者として活動しています。今回はその「かわさき模擬患者の会」を紹介します。

現在、「かわさき模擬患者の会」のメンバーは男性が3名、女性が4名の計7名で活動しています。毎月第四火曜日の午後を定例とし、川崎協同病院を中心に活動をしています。例会の中では学習会や模擬患者の練習、活動の報告や今後の計画についての議論などを行なっています。会議が終了した後は、主に初期研修医や二年目看護師を対象にセッション（模擬医療面接）を行なっています。

会の目的は、

①医療者のコミュニケーション技術学習を援助すること

②模擬患者自身が賢い患者となるための場とすること

の2つを掲げています。

セッション、といっても皆さんにはイメージがわかないかもしれませんので少し詳しく説明します。

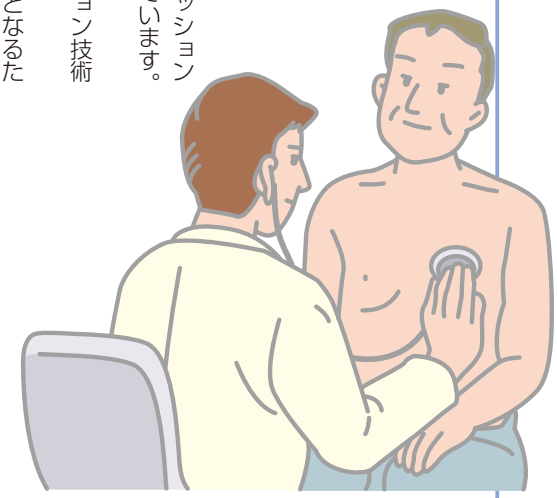
場所は診察室。医療者と模擬患者がある決まったシチュエーションに基づいて7分間の会話を行います。与えられるシチュエーションは「終末期に在宅医療を希望する患者」「内服薬の副作用に不安を持つ患者」「診察を受けずに薬だけもらいたい患者」「寝たきりの母の介護を行う娘への説明」など様々。そのセッションをビデオで撮影し、隣の部屋で〝生中継〟します。隣の部屋でセッションの模様を見るのは他のSPの他にファシリテーターと呼ばれる指導者。「かわさき模擬患者の会」では八木看護部長と関川副院長がファシリテーターを務めています。7分間のセッションが終わると今度は録画しておいたビデオを見ながら演じた医療者・SPがファシリテーターと一緒に振り返りを行います。

「私こんなクセがあったのか・・・」と、医療者にとっては普段行っている患者さんの対応を振り返るいい機会となります。またファシリテーターからも患者さんに対する姿勢や言葉の選び方などのアドバイスがもらえます。SPにとっては「演技をすることによって、普段自分が受診するときの心構えができる」などのメリットがあります。

月に一回の川崎協同病院での定例会の他に、年に一度は法人内の診療所に〝出張〟して公開講座も行っています。二〇〇七年は久地診療所へ、二〇〇八年は京町診療所に出向き、「健診の予約に関するトラブル」「検査入院をすすめられたが納得いかない患者」など、診療所ならではのシナリオを作って行っています。

医療者と模擬患者が一緒になって、よりよい患者・医療者関係を作る場として、今後も活動を充実させていければいいと思います。興味のある方はぜひ参加してみてください。お待ちしております。

医局事務　木下　望



川崎協同病院「クリスマス会」開催

昨年12月27日に川崎協同病院の「クリスマス会」が7階会議室で開催されました。6年目を迎えるこのイベントは、川崎協同病院の職員たちによる手作りの会で、入院患者に元気を出して、大いに楽しんでもらう企画です。

地域の方にも呼びかけ、近隣の方や高校生、看護学生など今年も約30名のボランティアが集まりました。また、職員の子供たちもサンタクロースに扮して参加し、会を盛り上げてくれました。

また、各科の医師や研修医による「崖の上のポニョ」のピアノの連弾や、チェロ演奏、看護師長11名によるダンス、地域の方々による合唱、ウクレレ演奏、フラダンスが披露され、懐かしい曲には、高齢の方たちも一緒に口ずさむこともあり、終止笑いに包まれた和やかな会となりました。

7階の会場でのイベント終了後は、高校生や看護学生、職員により各病棟から出られなかった患者を個別に回り、手作りのプレゼントを手渡すとともに、ハンドベルの演奏が行われました。

みんなの関心事
「新型インフルエンザ」学習会は大盛況！

NEWS

10 月 31 日に感染対策委員会主催の公開学習会「新型インフルエンザにどう備える」を病院 7 階で開催しました。たくさんの方にお集まりいただき有意義な講演会となりました。講演は、国立感染症情報センター主任研究官 森兼 敬太先生。参加者は全体で 125 名、当院以外の方は 31 名で、特に介護施設の方が多かったようです。

はじめに、当院の吉田医師より結核の話がありました。「結核 Q ＆ A」と題して感染対策の基本的な知識と結核の感染の推移などにもふれ、とてもわかりやすい講義でした。「一般病院で結核が発見され、結核専門病院への転院依頼を行ってもベット満床などの理由で断られたとき、一般病院ではどうしたらいいか」など森兼先生に質問される場面もありました。とくに高齢者の肺炎やその他の炎症性疾患で結核が再燃するケースが多く医師をはじめとして病院関係者が頭をいためる深刻な状況がみえかくれしました。

「新型ウイルスにどう備える」をテーマにした森兼先生の講演は鳥インフルエンザとインフルエンザの違い、新型インフルエンザは鳥のインフルエンザがヒトに感染してそれがさらにヒトからヒトへ感染するようになったものである。新型インフルエンザの感染経路はまだわからないが通常のインフルエンザに準じて考えるのが妥当であり、現時点では飛沫感染と予想されが空気感染も否定はできないとのことでした。

医療体制のガイドラインは患者の増加に応じて三段階があること。もし疑わしい患者が来院したらあわてず他の患者様から離れた場所に誘導すること、スタッフは手洗いして N95 マスクと手袋を着用すること、そしてすみやかに保健所に連絡すること、絶対に抱え込まないことが大事とのお話でした。

また、新型のワクチンはインフルエンザが発生してからでないと製造ができないことや接種可能になる時期は最低でも 6 ヶ月かかり最初の流行には間に合わない可能性が強いこともいわれました。

現在のところ感染予防策はインフルエンザに準じるしかないので

1、職員も患者もサージカルマスクをする。
2、せきやくしゃみを避ける（くしゃみは 1 ～ 2m 飛びます）
3、手洗いの徹底

以上のようです。

あわせて、インフルエンザ対策として

1、予防接種
2、インフルエンザのシーズン中はマスクの着用
3、感染した職員が安心して休める体制つくり

についてもお話しされました。以上参考にしてください。

副看護部長　鈴木 久美子

INFORMATION

川崎協同病院倫理委員会公開学習会 開催

テーマ：「あなたは死とどう向き合いますか？」
日　時：2 月 20 日（金）18 時から
場　所：ふじさきクリニック ４Ｆ会議室（川崎協同病院 100m 先）
連絡先：川崎協同病院 管理室直通▶鈴木 久美子　TEL:044-277-2127

編集後記

新春、明けましておめでとうございます。平成二十一年が始まりました。

さて、昨年は皆さまにとりどのような一年でありましたでしょうか？昨年はスポーツの祭典である北京オリンピックという明るい話題が影を潜めるように、年末は米リーマン・ブラザーズの破綻が引き金となった世界的な経済環境の急変に伴う株価暴落や非正規社員の派遣打ち切り等、暗い話題が多くなってしまったように思われます。

また医療の分野においては四月より開始された『後期高齢者医療制度』が始まり高齢の方々にとっては医療を安心して受けることに対しての不安が高まりました。また妊産婦の受け入れ先がない等、国民の医療を受けることに対しての不安が高まっているように思われます。

このような昨年を受けて、二〇〇九年はどんな年になるのでしょうか？

五月からは裁判員制度が始まり、殺人等の凶悪な事件の司法判断に国民が参加していくことになります。そして九月で衆議員の任期切れもあり、今年も大きく世の中が変わる年となるのでしょうか？見守っていきたいと思います。

今回、『笑顔の広場』のリニューアル二回目として無事発行することが出来ました。今年はさらなる内容の充実を目指し、皆様方に協同病院をより知ってもらえる機会となるよう頑張っていきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

広報委員会 ソシャルワーカー
渡辺 龍生